



講座のアピールポイント

当科は埼玉医療センター唯一の複数分野の混合診療科であり、糖尿病および甲状腺、下垂体、副腎などの内分泌疾患、血液疾患に対する高度かつ専門的医療を多くの患者さん（年間、糖尿病：約6000名、甲状腺疾患：約3000名、血液疾患：約5000名）に提供しています。

当科の特徴として糖尿病では運動療法は全国トップレベルであり（原 健二講師）、甲状腺専門外来（橋本 貢士教授：日本甲状腺学会理事）も開設し、甲状腺疾患を得意としていることが挙げられます。また血液疾患では年より多発性骨髄腫、悪性リンパ腫、急性白血病の適応ある患者さんに対して、自家末梢血幹細胞移植による治療を開始致しました。これにより、従来の化学療法より強度を高めた大量化学療法が可能となり、より高い治療効果が期待できます。また、当施設は成人白血病治療共同研究機構JALSGに参加し（JALSG幹事 木口 亨准教授）、白血病患者さんに対する最新治療を行っています。また、骨髄線維症などの血液疾患に対する新規薬剤を使った臨床試験に多く参加しています。

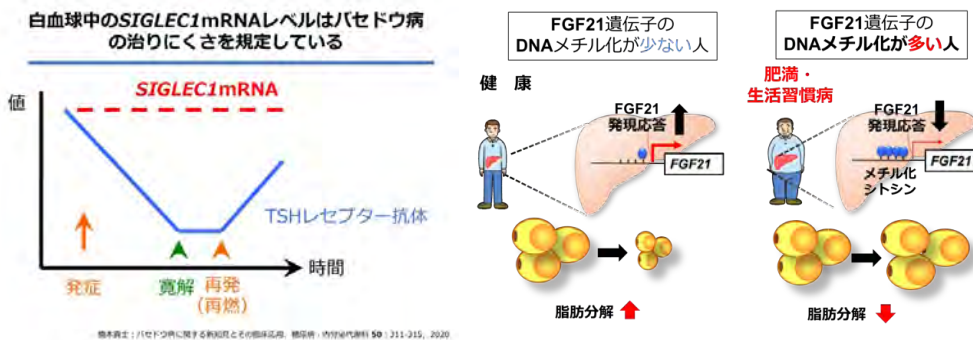
講座研究紹介（糖尿病内分泌）

当科では原 健二講師を中心に、糖尿病運動療法指導に力を入れています。2012年より（株）東武スポーツとの連携を開始し、その運動量指導プログラムを「To Do! EXE（トゥードゥーエグゼ）」と名付け、運動療法指導教室の開催や、ストレッチDVDの販売、運動療法について学ぶことができるeラーニングの開設（<https://el-dmexe.dokkyomed.ac.jp/>）等を行っています。



現在取り組んでいる研究は、高齢者の2型糖尿病患者さんを対象に、手軽に取り組むことができるダンスプログラムが、生活の質を向上するかどうかを検証するものです。ダンス&ボーカルグループである「TRF」のダンサー、SAMさんがシニア向けに作成した、「一生元気に動ける体を！ ダレデモダンス」のDVDを用いて、自宅でのダンスプログラムを実践して頂き、その効果を検証中です。

また、橋本 貢士教授が開発した「バセドウ病の再燃再発を予測するマーカー：Siglec1」によるバセドウ病患者さんの再発しやすさ、治りにくさを判定する研究を行なっています。このバセドウ病の再燃再発を予測する研究は、わが国で橋本教授しか行なっておらず、世界的にも注目を浴びています。Siglec1は1型糖尿病の発症にも関与している可能性があり、その点についても研究を進めています。



さらに篠崎助教、橋本教授を中心に、FGF21遺伝子のエピゲノム記憶を応用した肥満2型糖尿病に対する新たな治療法の開発を目指し研究中です。

講座研究紹介（血液）

多発性骨髄腫における種々の研究を行っています。免疫病態の解析と新規NK（ナチュラルキラー）細胞療法の開発については、東京大学医科学研究所と国内共同研究を行っています。また、日本血液学会の骨髄腫領域研究（委員 田村 秀人教授）として、日本での疫学調査に参加しています。また、JALSGで行っている治療抵抗性急性骨髄性白血病の治療薬開発のための研究に参加しています（国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の支援による『PDX治療モデルを併用した治療抵抗性急性骨髄性白血病クローンの成立過程に生じる分子病態に基づく層別化システムの確立と標的治療薬開発に関する研究』）。

抗体治療薬 抗CD38抗体薬ダラツマブ（商品名ガラザレックス） イザツキシマブ（商品名サークリサ） 抗SLAMF7抗体薬エロツズマブ（商品名エムプリシティ）	プロテアソーム阻害薬 ボルテゾミブ（商品名ベルケイト） カルフィルゾミブ（商品名カイプロリス） イキサゾミブ（商品名ニラーロ）
免疫調節薬 レナリドミド（商品名レブラミド） ポマリドミド（商品名ボマリスト） サリドマイド（商品名サレド）	従来の抗がん剤 シクロホスファミド（商品名エンドキサン） ドキソルピシン（商品名アドリアシン）

上記から1-2種類の薬剤 + ステロイド薬 = 副腎皮質ホルモン

デキサメタゾン（商品名レナデックス、デカドロンなど）、プレドニゾン（商品名プレドニンなど）